

—特集 [患者さんの生活の質 (QOL) 向上を目指して！—自由診療を中心に (1)]—



巻頭言

小川 令

ゲストエディター

日本医科大学形成外科

この度、普段あまり取り上げられることが少ない自由診療に焦点をあて、特集を組ませて頂きました。自由診療というと、国民健康保険が適用できない医療ということで、マイナスのイメージをお持ちの先生方もいらっしゃるかと思います。しかし実際は、診断から治療に至るまで、大切な役割を担っています。

今回、附属病院で自由診療を行っている先生方にその内容と意義に関してご執筆を御願いたしました。健康保険ではカバーできない遺伝診断・遺伝学的検査や、不育症に対する自由診療、PRPを用いた膝関節症の治療、また美容皮膚科・美容外科治療、どれも重要な診療です。

特に日本では、人口の高齢化が進んでいます。多くの疾患が治るようになった今日、患者さんの生活の質 (Quality of Life : QOL) の重要性が増していますが、

高齢者の増加は医療需要のさらなる拡大を意味し、今後、自由診療は大きな役割を担う可能性があります。さらに医療技術の進歩により、遺伝子治療、再生医療、ロボット手術などの新たな治療法が開発されています。これらの最新治療は初期段階において自由診療の分野で重要な役割を果たす可能性があります。また、健康に対する意識の高まりに伴い、予防医療や生活習慣の改善、美容医療への関心も高まっています。これらは自由診療の範疇に入り、今後も需要が拡大していくでしょう。また現実問題として、公的保険制度の財政圧迫が進む中で、保険診療の範囲が適正化され、自由診療への移行が進む可能性があります。これにより、自由診療市場が拡大するかもしれません。

この特集を通じて、自由診療の役割を考えてみてはいかがでしょうか。